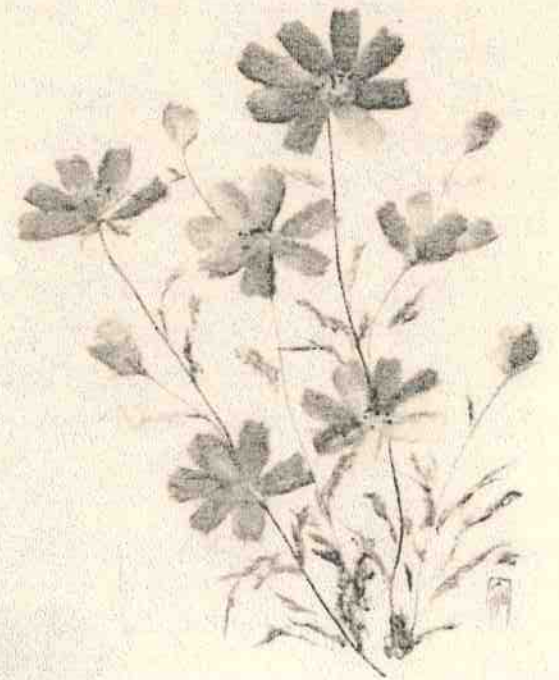


ふれあい雪谷

平成14年
もみじ号



(池の台 吉川 加奈子さんの作品)

母校の思い出 ⑪ ～母校までの道～

「信じてくれますか」 高台にあった池雪小学校に入学した
ひげやま
のは60年前、学校までの距離は遠く私たちは日下山から近く
の友達みんなで歩きました。呑川を渡り下流まで続く桜並木の
堤でレンゲの花をとり冠にしたり、垣根の葉をまるめて笛にし
て鳴らし、笹の葉で舟を作りながら白坂の途中の
段段を登って行きました。



今、新幹線が通る路線を品鶴線といい、その土
つくし
手に春はたんぽぽ・土筆の草が茂り呑川の両側は
見渡すかぎり畑でした。煙をはきながら貨物列車
が近づいてくる音に耳をすませて聞き、何両編成
か首をふりふり数えたものです。

家は平屋や二階建てでしたので遠くに池上本門寺の大屋根や
おえしき
五重の塔が見えました。秋の御会式は大変賑やかで各地から万
灯が太鼓の音と共に練り歩き本山へと行きました。そして富士
見坂は名称の通り天気が良いと偉大な富士山をいつでも眺める
事が出来たのです。

「塾」などありませんでしたから兄弟・友達・近所の人みん
なで遊びいたすもしましたが、農家・商店・おつとめの家の
子どもたちはそれぞれに家の手伝いをしていました。

テレビも携帯電話ありませんから身体を動かして情報を集め
消化し身につけ、仲間と遊んでいました。

「欲しがりません勝つまでは」から「ギブミーチョコレート」
教育方針の大きく変化した六年間でした。

「嘘だと思うでしょう」本当のお話です。

(南雪谷 横田 洋子)



【編集後記】

多摩川に迷い込み、突然現われた「タ
マちゃん」こと、アゴヒゲアザラシに
ビックリさせられました。でもそのかわ
い姿には皆さんもすっかり魅了された
ことと思います。これも自然が少しづつ
戻っているのでしょうか？

今回も内容がたいへん充実し、興味深
い原稿をお寄せいただきまして有難うご
さいました。

次号もよろしくご協力の程お願いいた
します。

(笹丸 小倉 英靖)

〔発行〕わがまち大田雪谷地区推進委員会
〔編集〕ふれあい雪谷編集委員会
連絡先 雪谷特別出張所
大田区東雪谷四一三二二三
電話 三七二九一五一一七

〔発行日〕平成十四年十月一日

サークル紹介⑩

洗足はりえの会

洗足池の水辺で、ガマの穂が色づ
いてきました。そんな公園へのお散
歩の帰り洗足池商店街へ足を向けて
下さい。そして、パン屋さん「エス
ポワール」のウィンドーに目を止め
て下さい。

そこが、わたしたち「洗足はりえ
の会」の仲間十四人の作品が披露さ
れている場です。

季節をちよっと先取りして、風景
や、花、果物等を、和紙をちぎって
色紙に貼っています。

歴史は、古く池の台自治会館をお
借りして二十数年、先生は二代目で
す。大和市から元氣に通って来てく
ださい。



月一回の稽古ですが五
十才代々九十才までと年
齢層も広く和氣あいあい
と習っています。お菓子
当番があつて三時のおやつが有るこ
とが何よりの楽しみ、長く続けられ
る秘訣かな？



手先を使って和紙の風合になじみ
ながら、色彩・構図といろいろ考え
ながら自分の物にしているせいか皆
さんとても元氣です。九十一才にな
られる大先輩・醍醐さんは、今月も
F6の大きな作品に取り組んでい
らっしゃいます。

前をお通りの時には作品を見てい
ただければ嬉しいです。

(池の台自治会 K・Y)

私の健康法⑨

わたしは八十才。まだ現役で
働いています。

この地に来たのは昭和二十年
でした。希望ヶ丘商店街に履物
商として独立、開業しました。

昭和四十七年頃、オイル
ショックで店も不景気になつて
きました。その頃長男が靴屋と
して後を継ぐというので任せる
ことにしました。

そしてわたしは工場を経営す
ることになり、三十年がたちま
した。その間六十年、働きづめ
でしたが病氣らしい病氣はしま
せんでした。

とくに健康ということはあま
り考えませんでした。健康の
秘けつは快眠・快食・快便にあ

ると思います。

わたしは毎日、三食を決まっ
た時刻にとり、夜は七時間たっ
ぱりと眠ります。

カラオケが大好きです。大き
な声を出していると、気持ちは
さっぱりとしてくよくよするこ
となどありません。これも健康
法のひとつだと考えています。

要するに、ストレスをため
ず、規則正しい生活を守ってい
くことが大切だと思います。

(希望ヶ丘 高木繁男)



開校70周年を迎えて

本校は昭和7年10月12日、池雪小学校の分教場として開校しました。学校の周りは、まだ草深い農村風景が続いており、子どもたちは魚釣りや虫取りに興じていた頃です。学校は、谷間の田んぼを整地して、わずか6教室の小さな規模で建てられました。

以来70年、本校は今日まで1万2千333名の卒業生を世に送り出し、社会の発展に大きく貢献してきました。しかし、ここまでの道のりは決して平たんなものではありませんでした。

数次にわたる校舎の増築・改築、校地の拡張などなみなならぬ努力が続きました。中でも、辛い出来事は、戦争の空襲によりようやく特別教室を持つまでに発展した学校が全焼したことです。数発の焼夷弾により、校舎は一瞬にして灰になったのです。疎開より帰校した子どもたちが目にしたのは、懐かしい校舎ではなく、荒れ果てた焼け跡でした。

校舎の再建までの2年間、隣の赤松小学校を間借りして教育が進められました。間借り校舎での教育の不便さは、そうとうなものでしたが、当時の先生方は小池小の教育の質を落としてはいけないと奮闘されました。それは、間借り校舎で理科の研究発表会をしたほどです。

このように苦しく困難な時代にも、本校に勤務する教職員はもちろん、本校を愛する地域の方々や同窓生の方々が常に一体となり努力を重ね、幾多の困難を乗り越えながら今日の小池小学校が築かれて来たのです。

ところで、70年は、杜甫の詩に「人生70古来稀なり」と詠まれた、いわゆる「古希」に当たります。奇しくも今年は、21世紀の教育大改革元年の年。学校週5日制もスタートしました。まさに21世紀の教育の幕開けの年に、「古希の祝い」ができることは、ほんとうに意義深いことです。

『21世紀、夢にはばたけ小池の子』

70周年を祝うに当たり、子どもたちと共に掲げたテーマです。21世紀の本校と子どもたちがますます発展し、活躍するよう願いが込められています。

10月11日に、記念式典・祝賀会を挙行します。多数の地域の皆様にお出でいただき、本校の70周年を共に祝っていただけたら幸いに存じます。

(小池小学校長 中澤 米子)



雪谷の地名

昔の雪谷(明治、大正頃)は田園風景豊かな地であった。私の父の時代から、私の子どもの頃、まだまだ水田、畑、竹藪、植木場も多く農作物の洗い場も多かった。

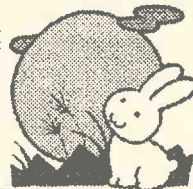
ひげやま
日下山は、清明学園から中原街道へのバス通りあたり、市ヶ谷方は、円長寺附近、狹路は東調布公園の西側附近、山谷は石川台八幡の附近、原は現在の荏原病院附近、下ノ谷戸・並木は東雪谷3丁目、谷中は現在の雪谷中学校の附近で昭和の初め頃までは水田で人家は殆どなかった。これが、その頃の地名で「谷」の字が非常に多く「雪谷は九谷がある」とよくいわれた理由である。

狹路には、水神様といわれる水源地があって、清らかで豊富な水が湧き出して水田を潤していた。農家は野菜物の洗い場として便利に利用していた。また、正月にはこの水神様で餅を投げ、子どもたちや野宿者(ホームレス)は喜んで拾った。そしてこの流れは呑川に注いでいた。

呑川の兩岸は桜の木が茂り、うなぎ・フナ・コイが多くとれた。こんな地が雪谷であり、当時の住民は後北条氏の家臣だった人たちが開拓した地であったといわれている。

古代(5500年前頃)は呑川の流れを中心に海が深く入り込んで、円長寺附近(雪谷古墳)から、多摩川の方面に行くと木の葉をとり、獣を追っていた地である。

(南雪谷 飯田 忠則)



美しい環境づくり⑤

美しい環境についての偶感(前)

“環境”辞典には「周りの物事・事情あるいはそのものに与える周りの状態」と出ています。我々のごく身近に通り過ぎていった時代の、自然環境の変遷そのものではないでしょうか。

戦前の私たち(昭和一けた生)男の子は大がけ屋外で悪漢探偵ごっこか戦争・ちゃんばらごっこを上級生・下級生一緒になって、当時「原っぱ」という野原が格好の遊び場で、日の暮れるまで遊びに夢中でした。その頃の洗足池は今と異なり、こい・ふな・くちぼそ等釣りは自由勝手、そして小池釣り堀と共に、トンボを目当てにとりもち竿を手にして飛び回ったものです。トンボと言えばあの頃は銀ヤンマ・鬼ヤンマ・塩辛トンボ、池の菖蒲の葉先に止まっていた糸トンボ類やそして先に触れた原っぱには、バッタやカマキリや昆虫たちが必ず見られましたが、今はその影もかたちも見られません。

洗足池の水門からの放水は、洗足池裏の変電所用水と一緒に掘割川(現在は洗足流れ)や、そして小池釣り堀の水門から小池小学校近くにあった用水堀にも(現在は暗きょ)、きれいな小ぶな・えびがに・めだか等も捕ることが出来た記憶があります。

洗足池と小池は大昔繋がっていたといわれています。

(小池 天田 正昭)

自治会リレー随筆

友達への暑中見舞の返事

早々に暑中見舞を頂きありがとうございました。

はがき
昨年お葉書を頂きました時は、私心臓手術のため東京女子医大へ入院しておりましたね。冠動脈のバイパス手術というのは、胸を開き心肺装置を取り付けその間に他の動脈をつなぐ手術なのです。

三日程集中治療室にいましたが、それから一年近く今日まで無事に過ごしております。暑さ寒さは大敵ですけど、その後非常事態も起こさず、普通の暮らしをしております。この程東京女子医大がある種の不手際を起こし、何かと世間から騒がれてはおりますけど、やはり伝統の心臓外科医大だと思います。世間の批判も厳しく、特例病院の取消しなど、それ程の制裁を受けなければならないのは非常に残念でございます。

看護婦さんは1日何万歩くのでしょうか。その間やさしい態度と手当を怠りなく、医師は昼は外来患者、夕方は入院患者の見回り、夜は当直あり、四十余日の入院で頭の下がる医療でした。助けられた多くの方々の喜びと感謝のあることを忘れてはならないと思いました。

お葉書の終りに蒸し暑さの続くこの頃とありましたがあなた様もお身体に気をつけてこの夏をお過ごし下さい。そして次の級会に笑顔でお会いしましょう。

それから一言付け加えることがあります。あなたのおじいさまが奉納なされたという池上本門寺の灯籠がなくなりました。本堂他の改修と共に百段程もあるあの階段のわきになだらかな高齢者用の段が出来たのです。そのために取り払われたのか、別の場所に移されたのか、来年お参りに行った時気をつけて探してみますね。では次にお目にかかれる時まで

ご機嫌よろしゅう

(池の台 高橋 恵子)

俳句

萩の風ひ孫の足の速かりき

(上池上 海老澤 タケ子)

夢に逢う兄の笑顔や秋帽子

(上池上 岡田 八重)

秋晴れて子の晴れ舞台リレー戦

(上池上 小橋 つね)

秋光の打ちのべし紺沖に濃し

(笹丸 垂井 道夫)

秋晴の背にななしき海の色

(笹丸 垂井 道夫)



この情報誌は古紙70%の用紙を使用しています。